

2019 年度 学術研究発表ブラッシュアップセミナー

『”伝える”技術～学術研究発表のコツ～』

公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支部
学術委員会

「現場から世界へ。技師だからできる臨床研究。」

大阪国際がんセンター 上田 悦弘

私は、社会人になってからこれまでに、数本のテーマについて英語論文につなげることができました。ほとんどが仕事に疑問に思ったことを、テーマにして形にしてきました。「現場で問題点を見つけて、それを研究につなげ改善をしていく。」これこそ我々の仕事の醍醐味ではないでしょうか。英語で論文を書くことは容易なことではないと思いますが、これは、世界に自分の考えを発信していることです。すごくカッコいいことではないでしょうか。

今までの仕事は決して1人で行ったものではありません。研究を通じて多くの先生方から様々なことを教えていただきました。また、私は今も研究の進め方については勉強中の身ですが、少しでも皆様のお役に立てるように研究テーマを考える上で私が大切にしていることや今までの経験でためになった考え方などを紹介できればと思います。研究したくてうずうずしている若手の皆様には、是非聞いて欲しい内容にします。

「予演会をのりきる！学術研究プレゼンのコツ」

天理よろづ相談所病院 北村 一司

多くの施設で、学会発表前には同僚を集めた予演会を開催するであろう。予演会は自分のプレゼンが意図した通りに聴衆に伝わっているかを確認する貴重な機会である。しかし若手研究者にとっては時に発表本番よりも苦勞する(あるいは憂鬱な)ものであるかもしれない。予演会は必ずしも研究テーマの背景を熟知していない、専門外の同僚に対しても行うわけであるから、本番以上にわかりやすく伝わるプレゼンが求められる。

私自身、多くの同僚、後輩たちの予演会に立ち会ってきたが、その中でもわかりやすいと感じたプレゼンにはいくつか共通点がある。それはブレない構成、聞き手に優しい展開、無駄のないスライドデザインである。これらのコツを掴み、「専門外の人にも伝わるくらいわかりやすい」プレゼン作りを目指していこう。予演会でも伝わるプレゼンができれば、本番は(たぶん)無敵である。